



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

会社説明会および 2017年11月期 決算説明会資料

2018年1月12日



証券コード: 4187

URL <https://www.ooc.co.jp/>

目 次



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

2

1. 2017年11月期 決算概要
2. 2018年11月期 業績予想
3. 資本政策
4. 長期経営計画 Next Stage 10

<注意事項>

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。



1. 2017年11月期 決算概要

2017年11月期 決算概要



・ 前年度比

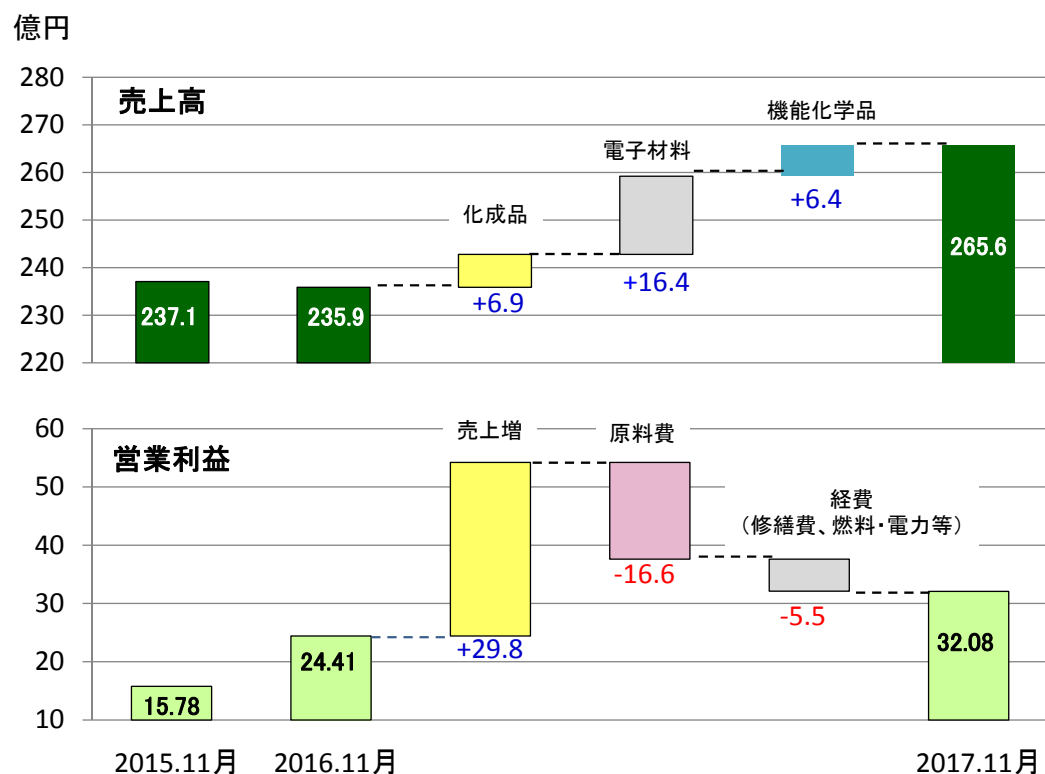
各セグメント売上増、特に電子材料(半導体材料)が好調に推移した。
国内ナフサの上昇による原燃料や修繕・手数料等の経費が上昇するも、
売上増により吸収、営業利益増

・ 予想比(年初)

各セグメントアクリル酸エステル、半導体、神港有機の売上が大きく寄与し、計画を上回った。
特に半導体材料2016.4Qからの好調が継続し、上方修正

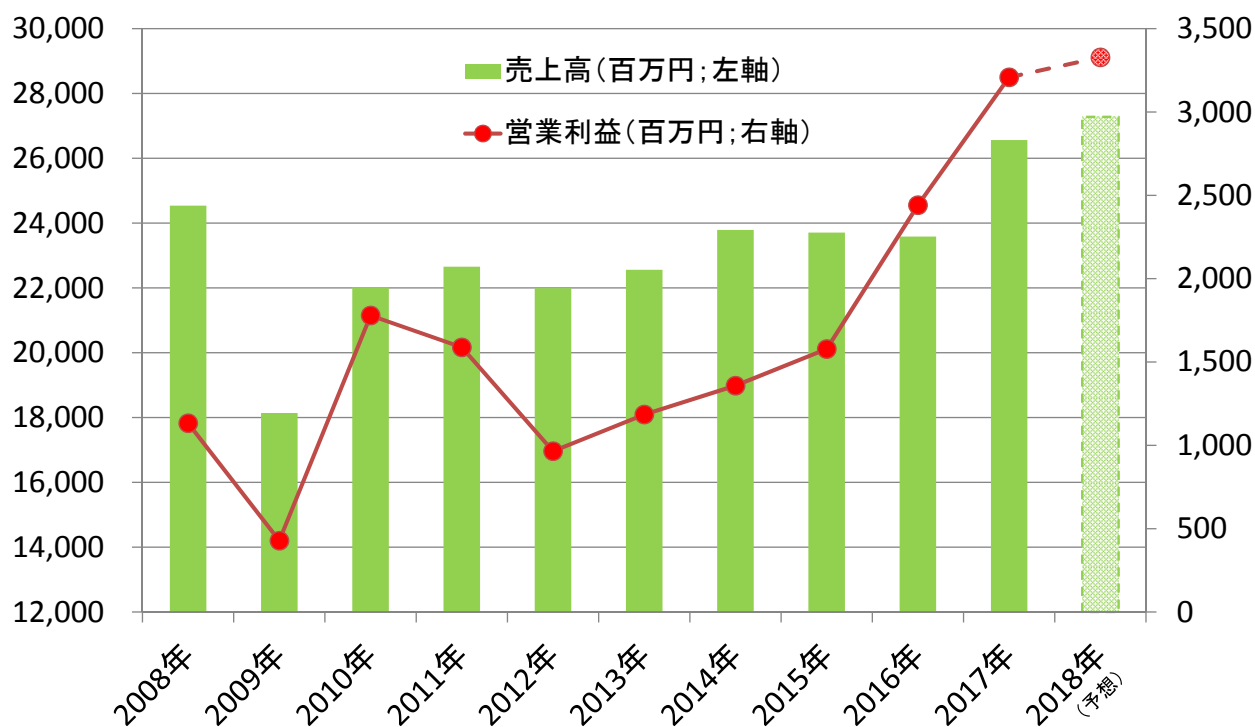
2017年期中 半導体業界の在庫リスク等を懸念し、上振れ要素織り込まず

	2016/11 実績	2017/11 予想	2017/11 実績	増 減			
				前年度比		予想比	
				金額	%	金額	%
売上高(百万円)	23,586	24,294	26,562	2,976	113	2,268	109
営業利益(百万円)	2,441	2,166	3,208	767	131	1,042	148
経常利益(百万円)	2,596	2,334	3,364	768	130	1,030	144
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,044	1,621	2,161	117	106	540	133
国内ナフサ(円/KL)	33,000	39,000	40,000	—	—	—	—
為替(円/\$)	108	115	112	—	—	—	—



(金額単位: 百万円)

		2016/11		2017/11		増減	前年比
			(構成比率)		(構成比率)		
売上高		23,586		26,562		+2,976	113%
	化成品事業	10,353	44%	11,046	42%	+693	107
	電子材料事業	7,754	33	9,396	35	+1,642	121
	機能化学品事業	5,477	23	6,119	23	+642	112
営業利益		2,441		3,208		+767	131%
	化成品事業	657	27%	792	25%	+135	121
	電子材料事業	1,297	53	1,779	55	+482	137
	機能化学品事業	502	20	643	20	+141	128

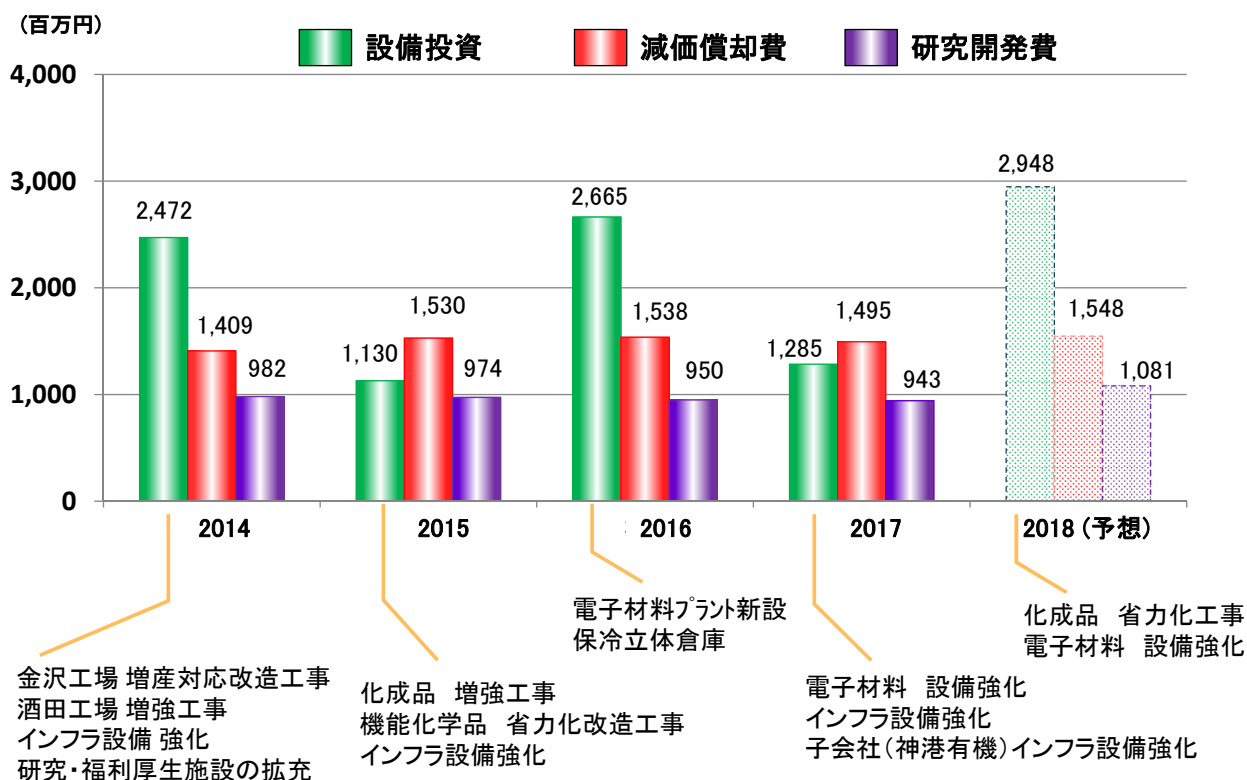


2. 2018年11月期 業績予想

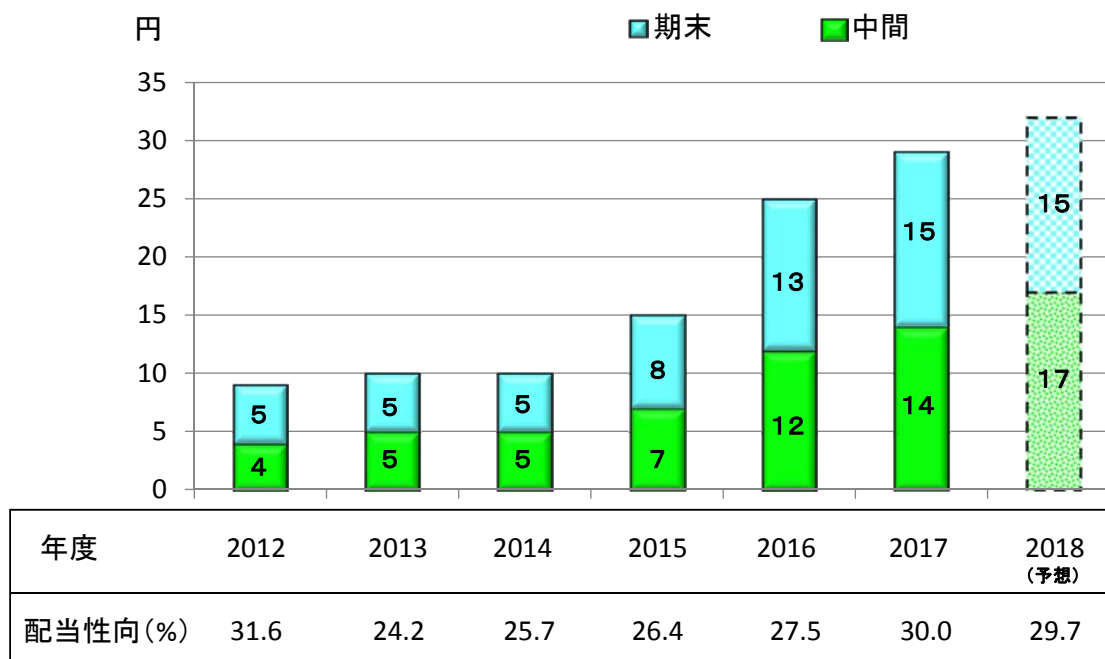
増収・増益を予想

	2017/11	2018/11	前年増減	前年比
売上高(百万円)	26,562	27,281	719	103%
営業利益(百万円)	3,208	3,327	119	104%
経常利益(百万円)	3,364	3,497	133	104%
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	2,161	2,415	254	112%
純資産(百万円)	29,698	30,819	1,121	104%
売上高営業利益率(%)	12.1	12.2	—	—
ROE(%)	7.7	8.0	—	—
一株当たり純利益(円銭)	96.51	107.86	—	—
自己資本比率(%)	74.7	75.4	—	—
国内ナフサ (円/KL)	40,000	38,000	—	—
為替 (円/\$)	112	110	—	—

2018年11月期 設備投資・減価償却・研究開発費



増収・増益予想にて 年間3円増配を予想



2017年11月期連結業績 化成品事業＜実績と予想＞

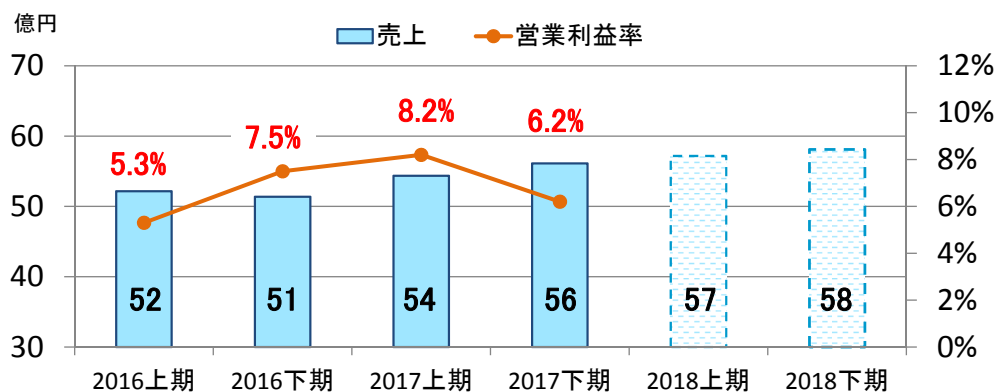
事業方針

安定基盤事業

事業展開

・収益性アップ	製品の選択と集中 優位性のある製品(4-HBA,IBXA等)の拡販
・海外拡販の強化	光碩上海法人とアメリカ駐在員との連携による拡販
・高付加価値製品の上市	特殊インク用原料(UVインクジェット等) 光学向け粘着剤用原料の拡販に注力

実績・予想



事業分野

自動車用塗料・粘接着材・特殊インク(UVインクジェット)等

事業環境

- ・国内産業の伸び悩み
- ・市場の中心はアジア、米国

当社の強み

- ・アクリル酸エステル類の豊富なラインナップ(化学物質申請対応)
- ・製造技術の蓄積

中期施策

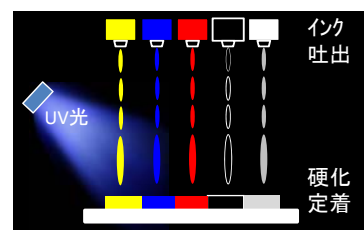
・海外市場への拡販強化	・特殊アクリル酸エステル(4-HBA等)の拡販 ・UVインクジェットインク用材料の拡販
・プロセス改善	・製造コスト低減
・用途の多様化 ・新製品開発	・光学材料向け粘着剤用原料の拡販 ・新規用途開拓とそれに合わせた製品開発強化

事業分野

特殊インク UVインクジェット

事業環境

- ・市場の中心は米国、中国、欧州



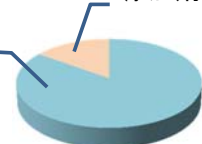
市場位置付け

- ・UVインクジェットインキ原材料としてアクリル酸エステル類の販売
- ・顧客 国内外のインキメーカー、プリンターメーカー

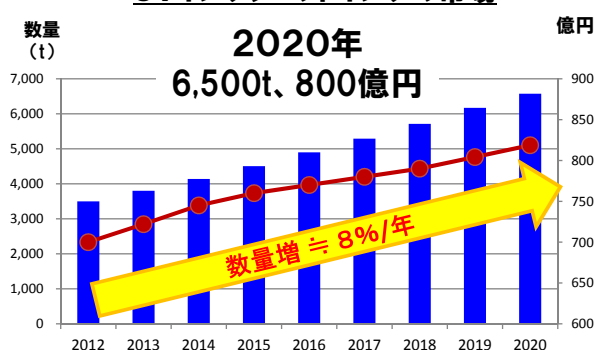
UVインクジェットインクの代表的な組成

添加剤15%

アクリル酸エステル85%



UVインクジェットインクの市場



富士経済(UV硬化型製品、レジスト関連製品の世界市場を調査)
2016年4月

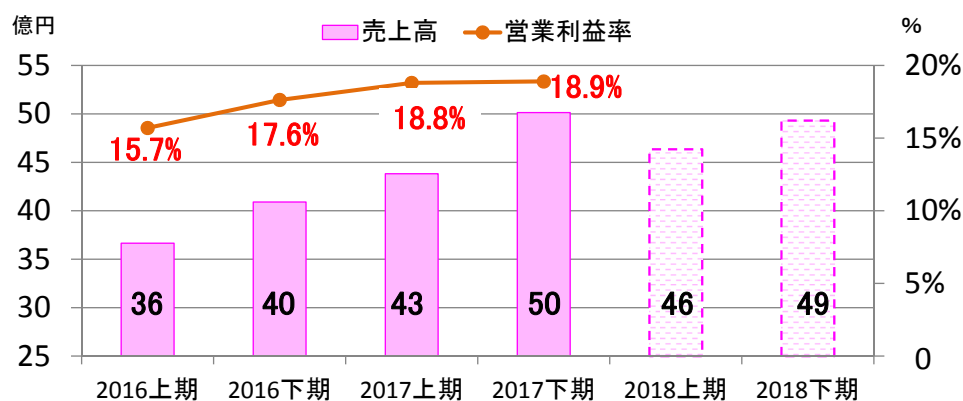
事業方針

先端材料事業

事業展開

・主力製品のシェア拡大	FPD材料およびArFレジスト用原料の拡販
・次世代表示材料の開発	タッチパネル用絶縁膜材料の用途拡大

実績・予想



今後の展開 電子材料事業

事業分野

半導体関連

事業環境

- ・ 半導体市場 AI、IoT関連分野の拡大により半導体市場の拡大
- ・ 3D NANDの市場拡大
- ・ ArFからEUVへの移行

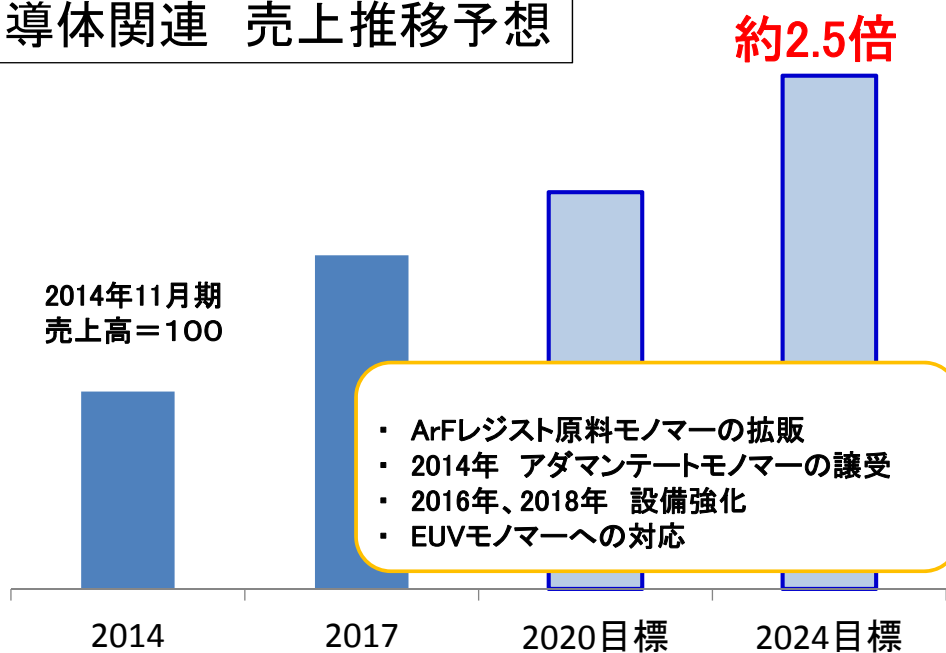
当社の強み

- ・ 光微細加工プロセスのキーマテリアル(特殊アクリル酸エステル類)の開発～生産の一貫対応
- ・ 高度な品質管理体制

中期施策

半導体関連材料の事業拡大	・ ArF用レジスト原料の特殊アクリル酸エステル類拡販 ・ EUV用レジスト材原材料への対応 ・ LSI関連材料への対応 ・ 設備増強による販売強化
--------------	---

半導体関連 売上推移予想



2017年11月期連結業績 機能化学品事業<実績と予想>

事業方針

第3の事業育成

事業展開

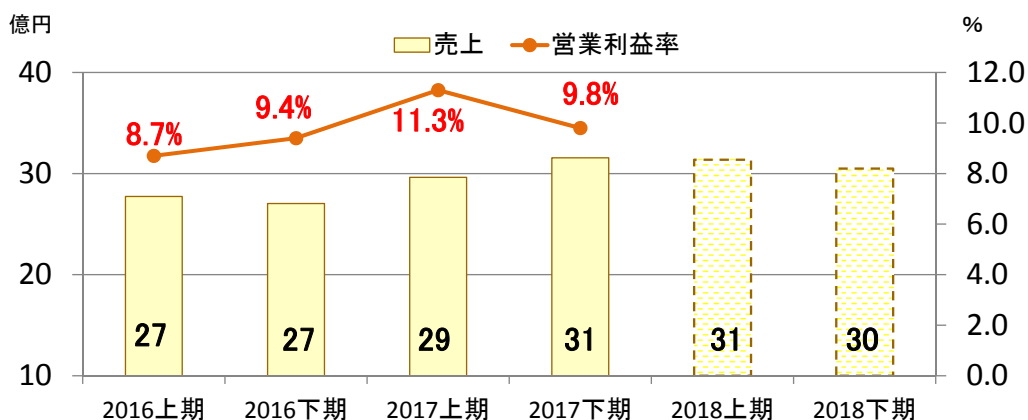
・海外拡販強化

化粧品基剤では高品質化で勝負

・既存製品の合理化
と拡販

化粧品基材のプロセス改良
特殊溶剤の拡販(連結子会社:神港有機化学工業株式会社)

実績・予想



事業分野 化粧品基材・特殊溶剤・機能性材料

事業環境
・アジア圏の化粧品市場の拡大
・特殊溶剤は高機能用途へシフト

当社の強み
・機能性アクリルポリマーの設計技術
・精密有機合成技術と精製技術

中期施策

・化粧品基材の海外展開	・アジア圏をターゲットにした拡販活動
・神港有機化学の事業改革	・電材向け特殊溶剤の拡販
・新規機能材料の商品開発	・顧客とタイアップした新規機能材料の開発を促進伸縮性導電材料 ・産学共同によるライフサイエンス分野の商品開発生体適合性材料

伸縮性導電材料



* アクリルエラストマ樹脂とフィラー等の混合物からなるコンポジット材料

- ・特徴 : 柔軟性、伸張性、耐熱性が高い。
伸ばした際の抵抗値変化が大きい(歪センサとして有用)
- ・用途 : ストレッチャブル歪センサ、感圧センサ、人工筋肉 等
- ・ターゲット分野: ウェアラブル、センサ、アクチュエータ、ロボティクス分野
- ・現状 : フィルム・樹脂としてサンプルワーク中



イメージ図(伸縮性導電ペースト)



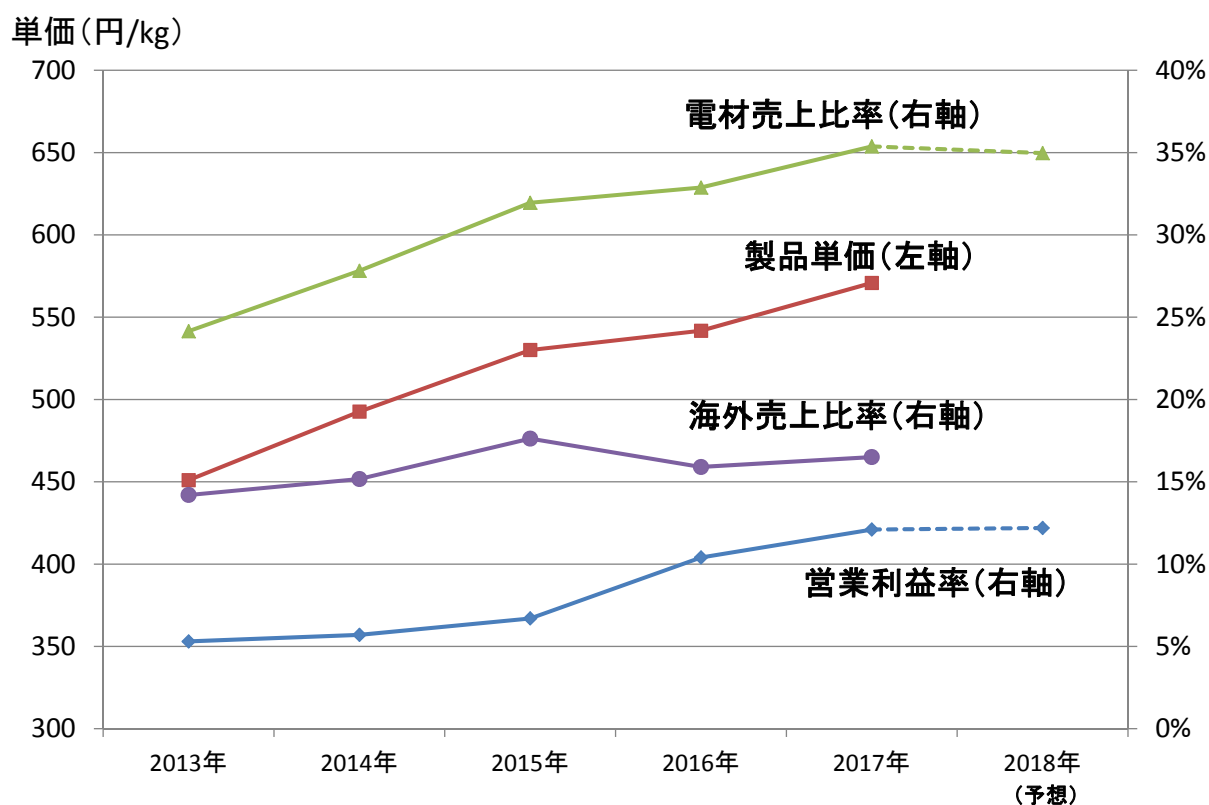
イメージ図(伸縮性導電フィルム)



第4回 ウェアラブルEXPOに出展予定

2018年1月17日(水)～19日(金)

於: 東京ビックサイト



3. 資本政策

基本方針

当社は、企業価値の向上を目指し、財務体質の健全性、資本効率及び株主還元の最適なバランスを図ってまいります。

配当政策

配当性向30%を重要な指標のひとつとし、支払いに努めます。

自己株式の取得

経営環境の変化に機動的に対応し、株主価値の向上に資する資本政策等を可能とするため、自己株式の取得を行います。

重要経営指標目標

売上高営業利益率10%以上を目標にします。
自己資本比率70%前後を維持します。

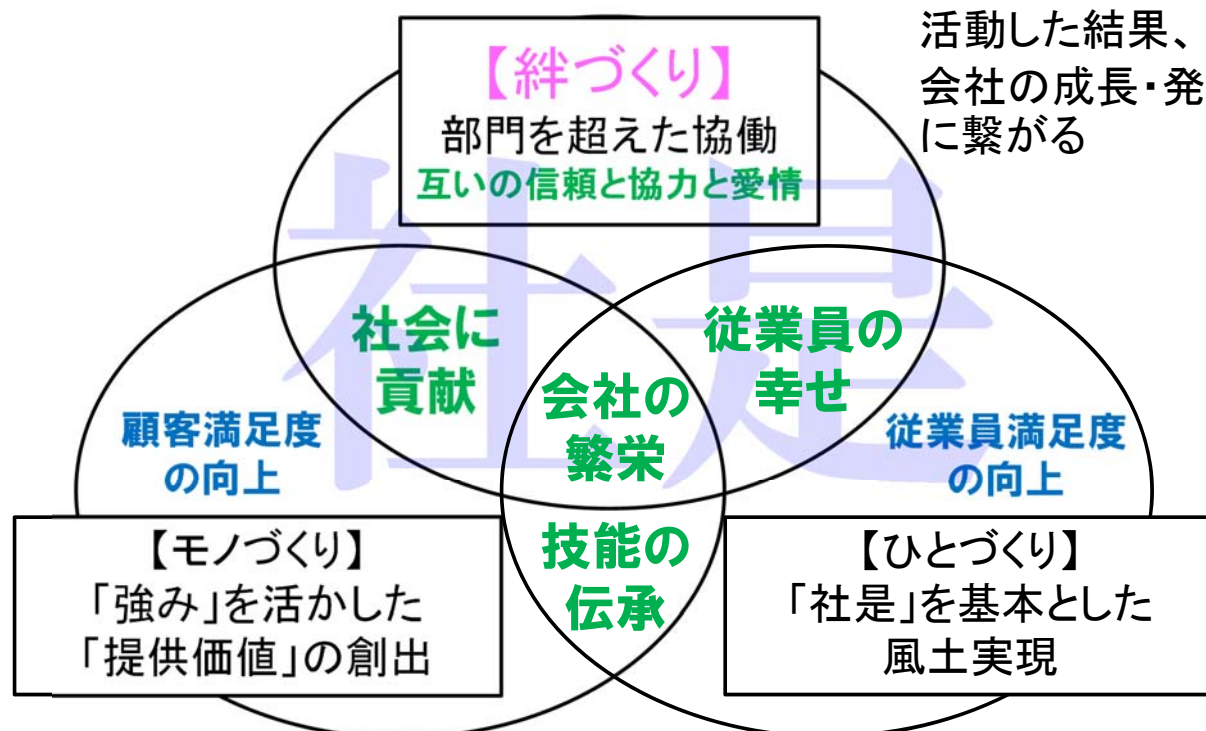
政策保有株式に関する方針

保有基準を定め、保有理由を明確に開示します。

資金調達(増資等)の方針

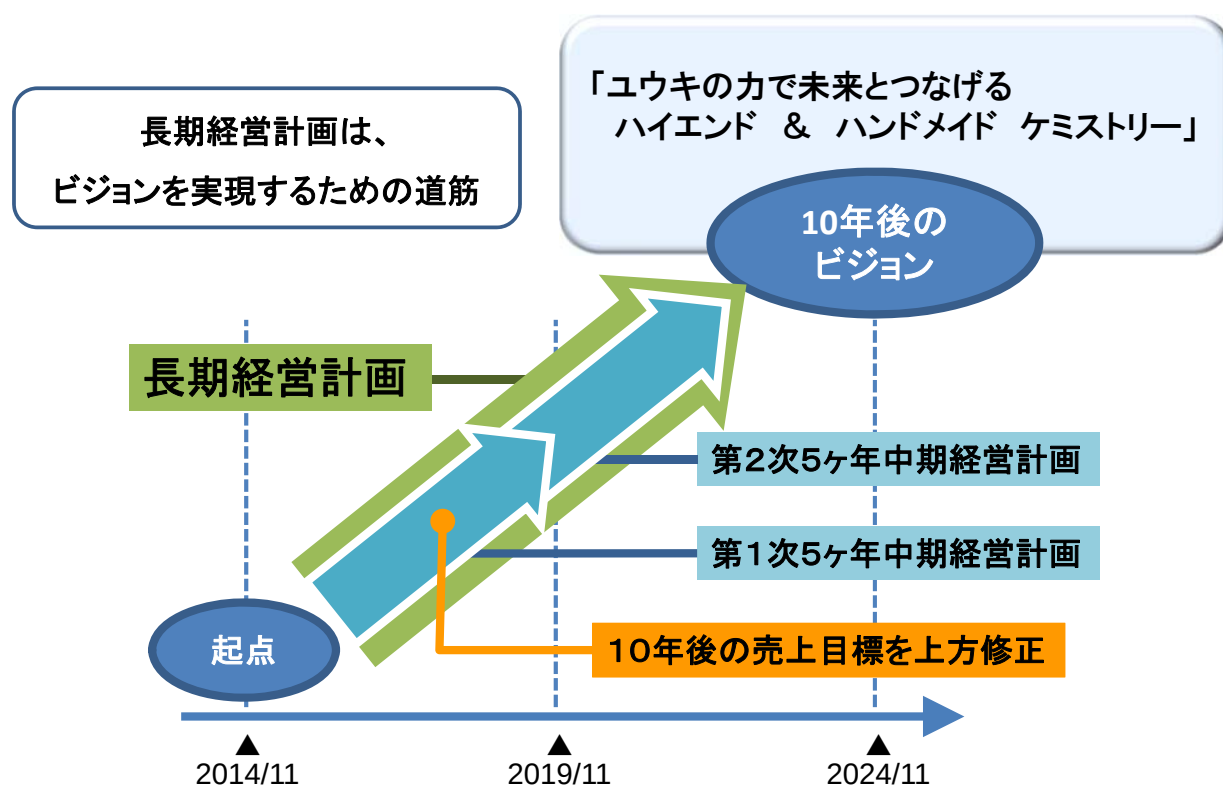
健全な財務体質の維持、資本効率の向上、株式価値の希薄化等への十分な配慮と調達コスト・スピード等を考慮し、資金調達を行います。

4. 長期経営計画 Next Stage 10



中長期的視点で
活動した結果、
会社の成長・発展
に繋がる

長期経営計画Next Stage 10 計画の位置づけ





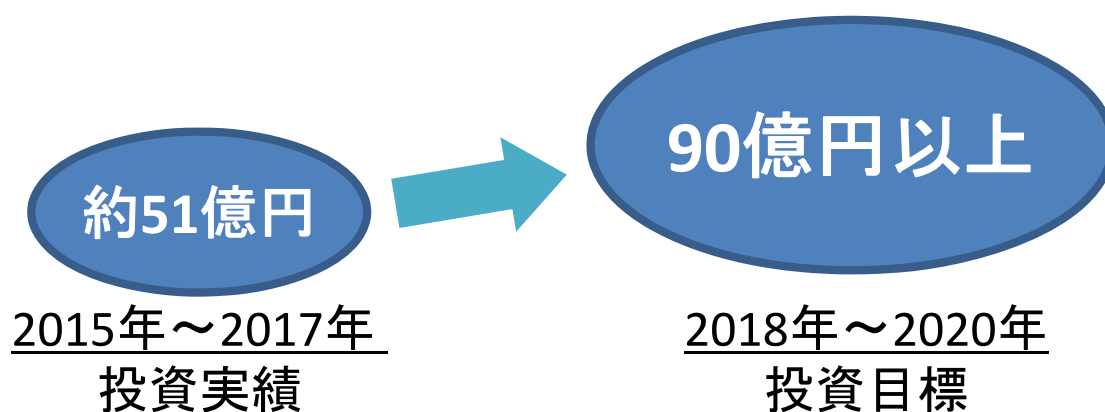
1. 既存事業における3つのNo.1
実現に向けたビジネスモデルの革新
2. 新たな収益の柱となる新規事業の創出
3. グローバル事業の拡大・推進
4. トータルコストの上昇抑制
5. 人材育成・獲得と技能伝承
6. 効率的な組織基盤の整備



海外を含む売上を伸ばしていく成長戦略には
効率的かつ集中的な投資が不可欠

→ 90億円以上(3ヶ年)を目指す

設備投資だけでなく、国内外問わずM&A等
アライアンスも含め積極的な投資を行っていく





(金額単位:億円)

	2016年 11月期 2年目実績	2017年 11月期 3年目実績	2018年 11月期 4年目予想	2019年 11月期 5年目(当初目標)	2024年 11月期 10年目(目標)
売上高	235	265	272	270	350以上
化成品事業	103	110	115	123	—
電子材料事業	77	93	95	82	—
機能化学品事業	54	61	61	65	—
海外売上高比率 (%)	16	16	—	20	—
営業利益率 (%)	10	12	12	8	10%以上
(営業利益)	24	32	33	22	(35以上)